

函館中央病院整形外科専門研修プログラム

目次

1. 函館中央病院整形外科専門研修の理念と使命
2. 函館中央病院整形外科専門研修後の成果
3. 函館中央病院整形外科専門研修プログラムの目標と特徴
4. 研修方法
 - 4.1 基本方針
 - 4.2 研修計画
 - ・専門知識の習得計画
 - ・専門技能の習得計画
 - ・経験目標(経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等)
 - ・プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
 - ・リサーチマインドの養成計画
 - ・学術活動における研修計画
 - ・コアコンピテンシーの研修計画
 - ・地域医療に関する研修計画
 - ・サブスペシャリティ領域との連続性について
 - 4.3 研修およびプログラムの評価計画
 - ・専攻医の評価時期と方法
 - ・専門研修プログラム管理委員会の運用計画
 - ・プログラムとしてのFD(Faculty Development)の計画
 - ・専門研修プログラムの改善方法
 - 4.4 専攻医の就業環境の整備機能
 - 4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
 - 4.6 修了要件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 函館中央病院整形外科専門研修の理念と使命

地理的に広大な北海道は、道央・道南・道北・道東の医療圏に区分されますが、医療機関・医師は札幌市を含む道央圏に集中しています。北海道内の医学部・医科大学は道央(北海道大学、札幌医科大学)と道北(旭川医科大学)にあり、函館市を含む道南圏は1県に匹敵する面積・人口を抱えるにもかかわらず、医学部・医科大学は無く、その使命は地域の基幹病院が担っています。函館中央病院は整形外科のサブスペシャリティである脊椎、上肢・手、下肢、外傷の各分野の専門医が在籍し、道南圏での整形外科医療の中心的な役割を担っているため、症例数も多く、幅広く専門的知識を学ぶことができます。

また、地域基幹病院として、プライマリケアから専門的な診断・治療、長期の経過観察まで一貫して行っています。この特性を生かし、専攻医は診断・治療にかかわった患者の経過を可能な限り長く観察し、診断・治療の妥当性を自ら評価し、臨床経験を積むことができます。

さらに、一人の患者と長くつきあい信頼関係を作る中で実際に患者の生の声を聴くことができ、診断・治療の問題点を明らかにし、それを臨床研究に結び付けていくというプロセスを学ぶことも大切にしたいと考えています。

このプログラムでは、北海道大学、九州大学、日本大学と連携しながら、「地域医療に貢献できる幅広い知識と視野をもった整形外科医を育てること」を目標とします。

2. 函館中央病院整形外科専門研修後の成果

函館中央病院整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と、高い社会的倫理観を備え、さらに進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力(知識・技能・態度)が身についた整形外科専門医となることができます。また、地域医療を中心とした研修によって、専攻医は研修期間中に以下の基本的診療能力(コアコンピテンシー)も習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること(プロフェッショナリズム)。
- 3) 診療記録の適確な記載ができること。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと。
- 8) 地域医療における包括的なチーム医療の一員としての役割を学ぶこと。

3. 函館中央病院整形外科専門研修プログラムの目標と特徴

函館中央病院整形外科専門研修プログラムの到達目標は、「地域医療に貢献できる幅広い知識と視野をもった臨床力」と「世界をめざせる研究力」を両立できる整形外科医師を育成することです。

整形外科学は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会をむかえた我国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。

北海道は地理的に広大な医療圏であり、医療機関・医師は札幌市を含む道央圏に集中しています。函館市を含む道南圏は1県に匹敵する面積・人口を抱えるにもかかわらず、医学部・医科大学は無く、地域基幹病院がその役割を担っています。そのため地域医療を支える整形外科医師の育成が急務と考えます。

函館中央病院整形外科は、サブスペシャリティ分野である、脊椎、上肢・手、下肢、外傷の各分野の専門医が在籍し、道南圏での整形外科医療の中心的な役割を担っています。症例数も多いため、整形外科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)からサブスペシャリティ分野まで幅広く専門的な知識や能力を獲得することができます。さらに、北海道大学整形外科と連携することで学術的観点からも専門的な研修ができるように配慮されています。北海道大学整形外科は、1947年に正式に開講され、90年間にわたり北海道内の整形外科医療の中心を担うとともに、国内有数の整形外科学教室として発展してきました。上肢、下肢、股関節、脊柱、腫瘍、外傷、スポーツ医学の各領域における専門的知識の習得は言うまでもなく、国際感覚を持った世界に通用する整形外科医師の育成が可能です。希望者には専門研修プログラム修了後に、函館中央病院整形外科と北海道大学整形外科、九州大学整形外科、日本大学整形外科との連携のもとで、北海道大学整形外科・九州大学整形外科・日本大学整形外科が用意するサブスペシャリティプログラム(脊椎、手外科、リウマチ、スポーツなど)への移行や大学院への進学が可能であり、最終的には高度な専門性を有した整形外科医になることが可能です。

このように、北海道大学・九州大学整形外科と地域医療研修病院と連携することにより、プライマリ・ケアから最先端の臨床・研究までを偏りなく学ぶことができます。多くの手術症例を経験・執刀し、研修終了後に自立した整形外科医として診療が出来ることを目指します。

また、地域医療に貢献しようという志をもった専攻医の皆様にも、医師不足地域での地域医療の研修と同時に多くの専門的な研修と研究の環境を提示できるプログラムとして環境を整えています。

4. 研修方法: 参照資料

整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料(日本整形外科学会 HP)

4.1 基本方針

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、函館中央病院および連携施設群において研修を行います。その中には、北海道大学・九州大学整形外科・日本大学整形外科のプログラムと連携した研修も含まれます。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科学会会員マイページを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の 3 月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第 3 者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は 1 ヶ月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の 10 の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、4 年間で 48 単位を修得する修練プロセスで研修します。

① 専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を 6 ヶ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年 1 回行い、評価したデータをまとめた評価表(図 1)を参照し、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。専攻医の過半数が獲得できていない知識があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

② 専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し技能能習得状況を 6 ヶ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年 1 回行い、評価したデータをまとめた評価表(図 1)を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

③ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を函館中央病院及び連携施設で偏りがないように経験することを目指します。経験の不足している分野については、その後の研修施設において経験可能なように配慮します。

④ プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会を行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

⑤ リサーチマインドの養成計画

地域基幹病院としての特性を生かし、専攻医は診断・治療にかかわった患者の経過を可能な限り長く観察して診断・治療の問題点を明らかにし、それを臨床研究に結び付けていくという姿勢を学んでいただきます。函館中央病院では、臨床能力のみでなく、臨床研究を遂行する能力を獲得できる機会を数多く提供していることが大きな特徴です。

実際、函館中央病院整形外科は、毎年継続して日本整形外科学会等の全国

学会や整形外科関連の国際学会において臨床研究を数多く発表しているほか、北海道大学大学院医学研究院と連携して臨床大学院生の受け入れと指導を行っています(北海道大学医学院 臨床医学系コース 臨床系連携講座)。函館中央病院整形外科に勤務しながら、北海道大学の博士(医学)の学位を取得することができます。このような背景から、函館中央病院整形外科は、専攻医が研究プロジェクトを自ら進め、国内学会のみならず国際学会での発表をめざして臨床研究に取り組む機会を幅広く提供します。

⑥ 学術活動に関する具体的目標とその指導体制(専攻医 1 人あたりの学会発表、論文等)

専攻医が学会発表年 1 回以上、また論文執筆を研修期間中に年 1 編以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年 1 回集計し、面接時に指導・助言します。

⑦ コアコンピテンシーの研修計画(医療倫理、医療安全、院内感染対策等)

整形外科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力(コアコンピテンシー)を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力(コアコンピテンシー)を早期に獲得させます。

函館中央病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧ 地域医療に関する研修計画

本プログラムの連携研修施設には、道南(渡島・後志)地域または九州・中国地域の中規模病院が含まれます。したがって、すべての専攻医は研修期間内に、道南地域および九州・中国地域における地域医療を研修することができます。

⑨ サブスペシャリティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムは北海道大学整形外科専門研修プログラム・九州大学整形外科専門研修プログラムとも連携しているため、北海道大学整形外科学教室・九州大学整形外科学教室・日本大学整形外科学教室への大学院進学や整形外科サブスペシャリティ領域の研修にスムーズに移行できます。

4.3 研修およびプログラムの評価計画

①専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6ヵ月に1回行い、(9月末および3月末)専門研修プログラム管理委員会に提出します。

他職種も含めた函館中央病院および各研修施設での研修評価(態度も含めた総評)を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

②専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括(副)責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

函館中央病院に専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。

年1回の定期委員会(11月)を開催し、年度末3月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。

専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、各研修連携施設および専攻医に報告します。

③プログラムとしてのFD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施

設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

- 4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
- 傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

- ①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
- ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- ③臨床医として十分な適性が備わっていること。
- ④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
- ⑤1 回以上の学会発表、また筆頭著者として研修期間中に 1 編以上の論文があること。

以上①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 3 月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

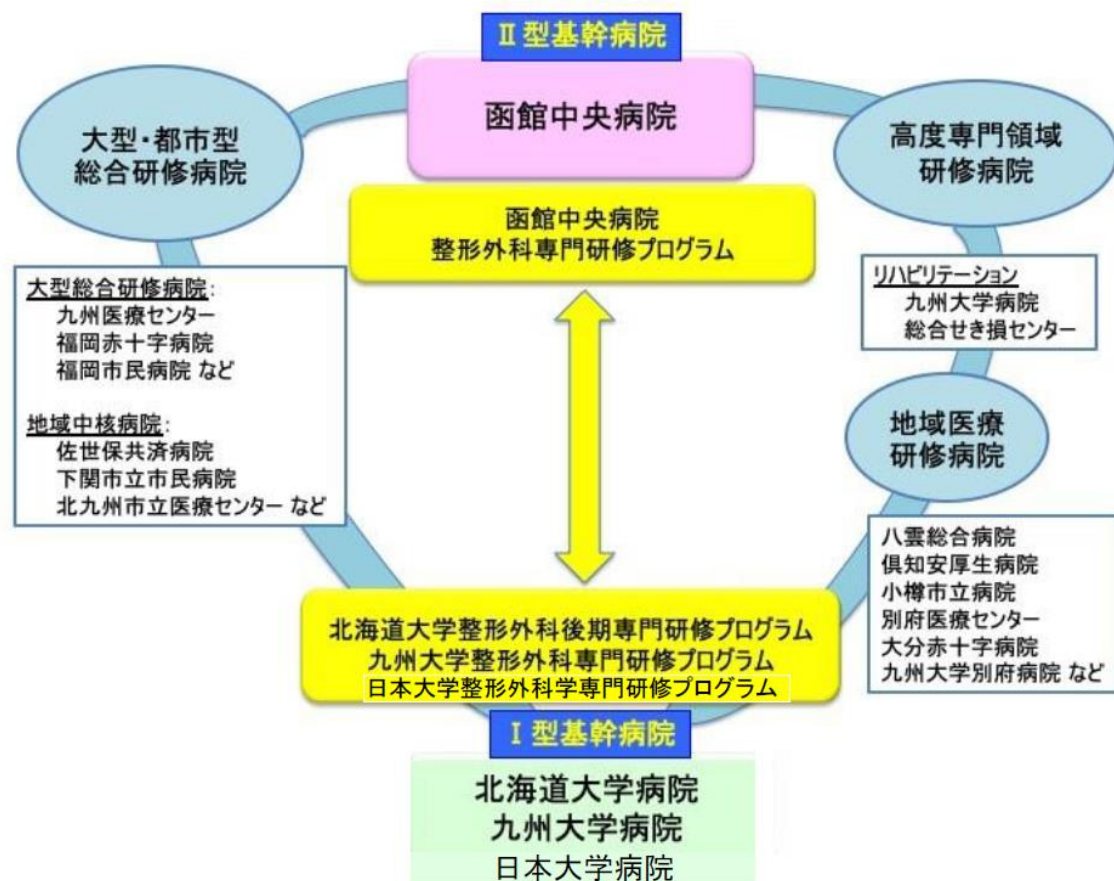
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

函館中央病院では整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。道南医療圏の中核病院として、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

【函館中央病院週間予定】

	月	火	水	木	金	土
	術前カンファ	術後カンファ		抄読会		
A.M.	外来・病棟	外来・手術	外来・手術	検査	外来・手術	外来
P.M.	検査・手術	外来・手術	外来・手術	外来・手術	外来・手術	
		脊椎カンファ				

【本プログラムの連携施設群】



それぞれの施設研修可能分野と特徴的な研修分野を示します。専攻医の希望・地域枠を考慮し、各単位・小児整形・腫瘍・地域医療研修などのローテーション表と専攻医毎の年次別単位取得計画を作成し提示します（専攻医志望人数により変わります）。下記に例示します。

【研修病院群と指導可能な研修領域】

医療機関名	脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	地域医療	小児	腫瘍	指導医数
函館中央病院	●	●	●	●	●	●	●	●		7
北海道大学病院（1型基幹）	●	●	●	●	●	●		●	●	19
ニセコ羊蹄広域俱知安厚生病院		●		●	●	●	●			2
八雲総合病院			●	●		●	●			3
市立小樽病院		●		●			●			2
日本大学医学部附属 板橋病院	●	●	●	●	●	●		●	●	7
日本大学病院（1型基幹）	●	●	●	●	●	●		●		7
公立阿伎留医療センター			●	●	●		●			0
独立行政法人国立病院機構災害医療センター	●	●	●	●	●	●				1
横浜中央病院	●	●	●	●						2
板橋区医師会病院		●	●	●		●		●	●	1
総合東京病院		●	●	●	●	●				1
埼玉県立小児医療センター		●	●	●			●	●	●	4
苑田第三病院	●									1
春日部市立医療センター	●	●	●	●	●	●	●			3
川口市立医療センター	●	●	●	●	●	●	●	●	●	3
東松山市立市民病院		●	●	●	●		●			1
萩原病院	●	●	●	●			●			1
本庄総合病院	●	●	●	●	●	●	●			1
みつわ台総合病院	●	●	●	●			●			2
九州大学病院（1型基幹）	●	●	●	●	●	●		●	●	19
NQ九州医療センター	●	●	●	●	●	●		●	●	4
福岡市立こども病院	●	●	●	●				●	●	2
福岡市民病院	●	●	●	●		●			●	3
福岡赤十字病院	●	●	●	●	●	●		●	●	3
九州中央病院	●	●	●	●	●	●		●	●	5
福岡整形外科病院	●	●	●	●	●	●		●	●	7
九州労災病院	●	●	●	●	●	●		●	●	13
JCHO九州病院	●	●	●	●	●	●		●	●	4
製鉄記念八幡病院	●	●	●	●	●	●				2
飯塚病院	●	●	●	●	●	●		●	●	3
総合せき損センター	●		●	●	●		●	●	●	1
田川市立病院		●	●	●			●			3
唐津赤十字病院	●		●	●	●		●		●	3
佐世保共済病院		●	●	●	●	●	●	●	●	5
大分赤十字病院	●	●	●	●	●	●	●			2
別府医療センター	●	●	●	●			●			3
宮崎県立宮崎病院	●	●	●	●	●	●			●	2
綜合病院 山口赤十字病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	3
下関市立市民病院	●	●	●	●	●	●				3
広島赤十字・原爆病院	●	●	●	●			●			3
JCHO登別病院	●	●	●	●						4

【研修病院別ローテーション表例】

医療機関	1年目	2年目	3年目	4年目
函館中央病院	専攻医1		専攻医1	
	専攻医2		専攻医2	
			専攻医3	専攻医3
北海道大学病院(1型基幹)		専攻医1		専攻医2
				専攻医3
小樽市立病院	専攻医3			
八雲総合病院		専攻医2		専攻医1
倶知安厚生病院		専攻医3		

専攻医 A	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目
専攻医 B	佐賀県立医療 C 好生館	函館中央病院	JCHO 登別病院	九大病院 福岡みらい病院
専攻医 C	宮崎県立宮崎病院	函館中央病院	九大病院 九州中央病院	別府医療センター
専攻医 D	唐津赤十字病院	九大病院 浜の町病院	佐世保共済病院	函館中央病院
専攻医 E	JCHO 九州病院	JCHO 登別病院	函館中央病院	九大病院 福岡市民病院

代表的なローテーション計画は、函館中央病院で 12～24 か月、北海道大学病院あるいは九州大学病院で 6～12 か月、各地域医療研修病院で 6～24 か月の研修を行う予定です。

*整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい。

6. 専門研修プログラムを支える体制

①専門研修プログラムの管理運営体制

2型基幹施設である函館中央病院においては、指導管理責任者(プログラム統括責任者を兼務)および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために函館中央病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。

本研修プログラム群には、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置きます。

② 2型基幹施設の役割

2型基幹施設である函館中央病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

函館中央病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を 1 回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を 5 年に 1 回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④ プログラム管理委員会の役割と権限

- 1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。
- 2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。
- 3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。
- 4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。
- 5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。
- 6) 函館中央病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。函館中央病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績

を満たした整形外科医とされております。

- 1)整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医
- 2)医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。また、副統括責任者がその業務をサポートします。

- 1)専門研修基幹施設である函館中央病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
- 2)専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥労働環境、労働安全、勤務条件

函館中央病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・施設の給与体系を明示します。

7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】 各年次 5 名 合計 20 名

【応募方法】

応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

函館中央病院整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ

<http://chubyou.com/seikei-senkou/index.php>

必要書類 : ① 申請書(ダウンロード)
② 履歴書(ダウンロード)
③ 医師免許証(コピー)
④ 医師臨床研修修了登録証(コピー)

【募集期間】7月末～9月30日(定員に満たない場合は第2回目の募集も予定します)

【問い合わせ先】

〒040-8585 北海道函館市本町 33-2

函館中央病院 整形外科

担当： 金山雅弘（研修プログラム統括責任者）

Tel: 0138-56-4642 Fax: 0138-56-4642

○ Seikei-senkou@hakochu-hp.gr.jp（整形外科研修プログラム専用アドレス）

【病院見学の申し込みについて】

函館中央病院は随時、病院見学・プログラムガイダンス希望を受け付けております。
下記ページの「問い合わせ」よりお申込み下さい。

担当： 秘書課・臨床研修管理室

函館中央病院整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ

<http://chubyou.com/seikei-senkou/index.php>